

1 学校教育目標
心身を鍛え 節度を重んじ 知能を磨き 徳性を涵養し 国家社会の有為な形成者を育成する

2 本年度の重点目標
1 生徒指導の充実 (生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携)
2 学習指導の充実 (教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成)
3 進路指導の充実 (系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり)
4 学校環境の整備 (物的環境の整備、人的環境の整備)
5 豊かな人間性の涵養 (個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化)

3 自己評価総括表					
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価
大項目	小項目				成果と課題
学校経営	学校改革の推進	本校教育に対する生徒・保護者の満足度の向上	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合 80%以上[生徒]、80%以上[保護者]	・各分掌部、学年、管理職間のコミュニケーションによるチームワークの向上 ・職員間の学び合いの機会の増加と各種指導力の向上	B
	業務改善・働き方改革	業務の適正化	時間外勤務の縮減 (目標値: 前年同月比超過勤務時間平均の1割以上減／全体)	・ノー残業デーの徹底 ・超過勤務時間の削減目標の設定 ・業務の整理、削減	B
	開かれた学校づくり	本校教育に対する保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」上位評価割合90%以上[保護者]	・生徒配付端末及び連絡システムを活用した学校、生徒、保護者3者間の情報共有と連携推進	C
		本校教育に対する地域住民、中学校生徒・保護者の理解、関心の向上	・評価アンケート保護者・生徒共に「地域及び中学校への情報発信」上位評価割合 90%以上 ・前期(特色)選抜及び後期(一般)選抜出願時の募集定員の充足	・学校HPの閲覧数の増加 ・学校案内、東稜ニュースの発行と配付 ・中学校の先生方への複数回の学校説明・学校説明チラシの複数回配付	B

学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	授業改善と授業の充実(各教科の共通事項と専門事項の視点から)	評価アンケート「授業に関する評価事項」最上位評価割合20%以上[生徒]	・東稜スタンダードの活用と改善 ・研究授業の効果的な実施 ・評価アンケートの分析、改善	B	授業に関する評価項目「1」の最上位評価割合は33%であった。次の「概ね当てはまる」の項目も合わせると93%が肯定的な回答となった。授業のICT化の成果が大きいと考える。新教育課程完全移行に伴って、また新たな視点からアプローチしていきたい。
	自学力の醸成	自ら学ぶ姿勢の確立	家庭学習時間の増加(目標値:該当学年の過去5年間平均値から5%増)	・タブレット端末を利用した学習時間入力と調査結果の活用 ・タブレット端末での課題配信や集計等、利活用促進による学習の効率化	C	1年生で5.7%増、2年生で25.8%減、3年生で22.5%減、という結果であった。特に2・3年生は過去5年間でも最低の値となり、危機的状況だと言える。スマートの利用時間増によるところが大きいため、そこをどうにかしていかなければならない。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	キャリア意識の向上と積極的な体験学習への参加	・インターンシップを実施予定。 ・ボランティア活動への参加も促す。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促すとともに、体験学習を行うことで進路意識の向上を図る。 目標は、学校評価アンケート「進路意識、進路活動、職員への進路相談」上位評価割合75%以上[生徒・職員]	・インターンシップ・ボランティア活動の積極的な参加の推奨 ・オープンキャンパスの広報と積極的参加の推奨 ・東稜大学・キャリアアップセミナー、講演会等の実施 ・大学探究や課題探究により進路学習の充実を図り、進路に対して自己決定できる力を育成	B	・8月20・21日に1年生を対象としてインターンシップを実施。事業所数83、参加者231名であった。今年度はボランティア参加も奨励しつとんどの生徒がいずれかに参加する形となった。 ・オープンキャンパスに関しては情報の紹介やLHRで時間をとり夏休みを利用して参加するように促した ・東稜大学・キャリア教育についてはともに実施し東稜大学については例年より国公立大学の招聘数が多くなった。また、今年度は全ての講座において対面での実施であった。 ・学校評価アンケート「進路意識、職員への相談」については、進路のしおり等の活用が1、2年生で77%、3年生で88%であり、進路についての自発的探究は3年生が91%、2年生が59%、1年生が53%と1・2年生はまだ低い。

	進路目標の達成	生徒を集団と捉える指導と個に応じた組織的な進路指導	熊大等の進学者を複数出すことと国公立大合格50名以上 ・熊大等の国公立大学や難関私大の合格3名以上 ・県内国公立大学合格23名以上（熊本大学3名以上、熊本県立大学20名以上）	・生徒の進路希望、適性等について分析会などを開催し、職員間の共通理解を図るとともに指導体制を整える ・進路行事の精選、特別講座において、時間割やクラス編成を工夫した効果的な実践 ・各学年部と進路指導部の先生方との連携により、数年先を見越した生徒の学力保障 ・二者面談、三者面談の充実	B	・7月と12月に進路検討会を実施・マーク式の模擬試験については自己採点結果を集計し速報資料として関係部署に配付、成績データ到着後は過年度・過去回・他校比較を作成各教科の分析も行い改善を図った ・進路行事について、特に特別講座について「情報」を時間割に組み込んだ形で実施。 ・進学について、現段階で国公立合格者は6名、東京都立大1名、宮崎大1名、同志社大1名、関西学院大1名。国公立大出願は終了し、個別試験に向け特別授業を実施している。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	東稜高校5つの行動目標を基本とした生活習慣の習得	・評価アンケート[生徒]「服装・挨拶」「掃除」「公共物」「言葉遣い」各項目の最上位評価割合60%以上 ・「運動、勉強」項目の最上位評価割合50%以上 ・評価アンケート[職員]「生活指導」項目の最上位評価割合35%以上	・部活動時間確保、下校時間の定着、家庭でのスマホ利用の改善 ・服装頭髪指導、交通指導、校則指導の徹底 ・全職員の共通理解を図り、すべての教育活動での指導の徹底	B	・今年度より登下校で指導を行った。「服装・挨拶」「掃除」「公共物」「言葉遣い」各項目の最上位評価割合60%を下回るところもあったが上位評価を加えると全ての項目で90%以上であった。 ・「運動、勉強」項目の最上位評価割合32%、上位評価を加えると77%と生活のリズムに課題がある。 ・評価アンケート[職員]「生活指導」項目の最上位評価割合40.8%であり目標を達成した。
	情報モラル教育・デジタルシチズンシップ教育の充実	・スマートフォンの適切な使用（使用時間含む）	・平日のスマホ使用時間1時間未満の生徒の増加（目標値：全校生徒の30%以上）	・情報モラル教室、職員研修の実施 ・スマホダイエットの実施（研情部と生安部の連携） ・実態調査アンケートの実施	B	・今年度は闇バイトが問題となり、警察署と連携して情報モラル講演会を実施した。 ・2学期期末考査後の平日のスマホ利用時間1時間未満生徒の割合は全体で60%以上であり目標値を上回った。評価アンケート「情報モラル教育の充実」上位評価割合の生徒調査結果は、94%と高く、生徒への意識付けは十分に出来た。今後も実態を見ながら取り組む必要がある。
		・不適切な使用で起こる危険性の理解と回避方向の習得	・校内での不適切な使用で指導される生徒数の学年進行での減少	・研情部と生安部の連携による対策（スマホ通信の発行等） ・外部機関との連携によるデジタルシチズンシップ教育の実施	B	研情部と連携をとる機会が少なかったが、各学年が粘り強くスマホ指導を行っている。欲求に負け指導を受ける生徒も多いが、ルールとしては徹底してきた。

	交通安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交通法規の遵守及びマナーの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数の削減（目標値：年間35件未満） ・評価アンケート[生徒]⑯「交通ルール」項目の最上位評価割合75%以上[生徒] ・評価アンケート[保護者]⑯「交通ルール」項目の最上位評価割合35%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所での交通指導の充実 ・交通講話の計画・実施 ・交通委員会活動の充実 	<p>C</p> <p>交通事故は46件（自損事故を含む）発生。件数としては前年度（47件）と同じく多かった。交通マナー等に関して外部から厳しい声も多い現状が続いているため、2学期に全校集会をし、年度末には交通苦情が減少した。</p> <p>・評価アンケートでは生徒は61%が最上位割合を示しているが、保護者は11%と低くなっている。保護者の意見が地域から見る本校生の交通マナーを表していると思われる。事故を未然に防ぐ啓発的指導とあわせ、登校指導等、現場での指導を行う必要がある。</p>
	主体的な生徒会活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、各種委員会活動への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした生徒主体の取組の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、各種委員会活動の充実 ・生徒総会の実施 ・生徒会・各種委員長研修会の実施 	<p>B</p> <p>・体育大会、文化祭、クラスマッチ等の学校行事において、企画、運営に尽力した。来年度以降の日程についても生徒会からの意見を反映させた。</p> <p>・生徒総会も開催し、校則の見直しや検討をおこなった。</p>
人権教育の推進	人権尊重の精神に立った学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・知的的理解を深め人権感覚を育成する指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の基本的認識の深化と実践的指導力の向上 ・評価アンケート⑯「HR、授業における人権教育指導」上位評価割合95%以上[職員] ・生徒の知的理解と人権感覚の向上 ・評価アンケート⑯「人権教育における学び」上位評価割合90%以上[生徒] 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育職員研修の実施（年3回） ・いじめ防止職員研修の実施 ・男女共同参画をテーマにした職員研修の実施 ・教職員の振り返りチェックの実施 ・人権教育LHRの実施 ・「人権だより」の発行 ・人権が尊重される授業づくりの推進 	<p>B</p> <p>・各種研修の実施により職員の基本的認識と実践力の向上がはかられたことで、上位評価割合は95.4%となり目標を達成することができた。</p> <p>・人権教育LHRや人権が尊重される授業が実践されたことで生徒の知的理解が深まり、人権感覚が涵養された。上位評価割合は91%で目標を達成することができたが。昨年に比べ、2%減少したのは、定期的に「人権だより」が発行できなかったことによるものと考えられる。</p>
	命を大切にする心を育む指導	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを尊重し、良好な人間関係を構築するための生徒の意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の課題を受容し、協働で解決する能力や相談できる能力の育成 ・評価アンケート⑯「クラス雰囲気 有意義な学校生活」上位評価割合90%以上[生徒] 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の交流を促す生徒会を中心とした学校行事の実施 ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)の実施 ・SOSの出し方に関する教育LHRの実施 ・生命（いのち）の安全教育LHRの実施 	<p>B</p> <p>上位評価割合は91%と目標を達成することができた。当初計画していたSSTや各種LHRを予定通りに実施したことで、クラスの人間関係構築により影響を及ぼされたと思われる。</p>

いじめの防止等	命を大切にする心を育む指導	心のきずなを深める教育の充実	生徒の自他を大切にする心の涵養 評価アンケート ⑩「クラス雰囲気 有意義な学校生活」の上位評価割合90%以上[生徒]	いじめ防止教育LHRの実施 ・心のきずなを深めるための標語作品の募集 ・心のきずなを深めるための標語優秀作品の紹介	B	いじめ防止教育LHRは1年生入学後の早い時期に実施し、心のきずなを深める標語を、全校生徒に呼びかけ作品作りに取り組ませたことにより、上位評価割合は91%で目標を達成することができた。先生方が日頃から自他の大切さや命の尊さを地道に訴えていたことも目標達成に影響したと考えられる。
		いじめの未然防止及び早期発見・早期解消	評価アンケート「いじめにあった経験」経験ありの割合15%未満[生徒]	・心のアンケートの実施(年3回) ・熊本県高等学校いじめを許さない宣言文の紹介 ・いじめを訴えた生徒の把握と迅速な対応	B	「いじめにあった経験がある」の割合は12%で目標を達成ができた。さらに数値の減少に努めたい。いじめ事案に対しては即座にチーム会議を開き、職員の共通理解を図り、組織的対応をとることで解消につなげることができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育	生徒・保護者・職員の防災に対する意識の向上	評価アンケート「防災教育の積極的な実施」上位評価割合95%[生徒]、93%[保護者]、83%[職員]の維持	・防災通信2回発行 ・生徒防災委員会の定期的活動 ・防災LHRの各学年職員と生徒防災委員の事前研修の実施	B	生徒87%、保護者84% ・防災通信の発行と防災委員会の定期的活動はできなかった。 ・年度当初に危機管理マニュアルを使い全職員に災害発生時の対応を確認、共有した。
		防災教育・避難訓練の内容の充実	評価アンケート「災害時の適切な行動の理解」上位評価割合95%[生徒]、85%[職員]の着実な維持	・防災教育・避難訓練の内容・方法の再検討 (車椅子の生徒の避難訓練を実施)	B	生徒評価93%・職員81.5% ・防災教育の事前指導は1 ・2年生は実施したが、3年生は防災教育ができなかった。(3年は一部の教科で防災教育を行った。
	学校運営協議会	本校の教育活動について協議し、提言を行う	・学校評価についての審議 ・探究学習等についての審議	・協議会の委員については、地域代表・地域中学校長・有識者・保護者代表・本校校長	B	学校の取組について、委員の方々と協議し、概ね高評価をいただいた。今後の学校運営に生かしていく。
コースの特色	国際コース	語学や異国文化、国際的関心の深化	評価アンケート「国際コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合80%以上[国際コース生徒・保護者]	・台湾永平高級中学校の生徒やオーストラリアのタタチラ高校の生徒との生の交流 ・各種研修プログラムの活用 ・資格試験の受験奨励及び対策	B	・7月末から8月初旬にかけて17名がオーストラリア語学研修でタタチラ高校を訪問した。10月に台湾永平高級中学が来校し交流を深めた。また、これまでのタタチラ高校に加えて、12月の修学旅行の際に、台湾永平高級中学と正式に姉妹校締結の調印式を行った。 ・グローバルコミュニケーション研修においては、1年生が全員、2年生が31名参加した。

	理数コース	自然科学や社会における産業技術等への探究	評価アンケート「理数コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合 75%以上 [生徒・保護者]	・学校設定科目「科学研究」の充実 ・高大接続の促進 ・大学の出前講義等による科学への興味や関心の高揚 ・科学系コンテストや研究発表会、数学検定等への参加の奨励	A	・KSH と KSC の予算で、2回の科学講演会や復興庁特別授業を含め、充実した研修ができた。 ・熊本県理数科発表会で地学班が『柱状節理について』のテーマで最優秀賞を受賞し、1年生の科学研究意欲高揚に寄与した。また、ドローン班は科学研究の注目的存在となっている。 ・各種検定も積極的参加した。 ・生徒、保護者とも 80%を超える肯定的アンケート結果であった。
生徒理解 ・教育相談 ・特別支援教育	生徒の理解および支援の充実	生徒理解に係る職員間の連携強化及び支援充実	評価アンケート「生徒理解のための職員間の連携」上位評価割合90%以上 [職員]	・支援を要する生徒について、担任や学年主任、教科担任者、保健室等から情報を収集、共有し支援に活かす。 ・支援対象生徒に関わるケース会議の開催、支援策の検討及び実施	A	支援を要する生徒に情報収集や情報共有に努めしたことにより、職員の連携が深まり、上位評価割合は 93.8%で目標を達成することができた。
		教育相談や特別支援教育に関する教員の資質向上	評価アンケート ⑯「支援や配慮を要する生徒に係る研修」上位評価割合90%以上 [職員]	・生徒理解研修の実施 ・S C の専門性を活用し、教職員の教育相談に関する資質向上を目指した研修会の実施 ・個別の教育支援計画の作成と計画に基づいた支援の実施	A	生徒理解研修や S C の専門性を活用した職員の資質向上を目指した研修の開催、個別の教育支援計画に基づいた支援の実施により、職員の資質が向上し、上位評価割合は 92.3%で目標を達成することができた。
健康教育	生活習慣の確立	特に、食生活において三食摂取し、バランスのよい食生活を心がけているか。	評価アンケート「朝食の摂取と食生活のバランス」上位評価割合90%以上[生徒]評価アンケート「三食の摂取と規則正しい生活」上位評価割合90%以上[保護者]	・朝食の重要性、栄養バランスと学習や運動能力の関係などを保健だによりに掲載	B	「朝食の摂取と食生活のバランス」については、保健便りはもとより、家庭科・保健の授業においても指導したが、88%で目標値を達成できなかった。保護者評価目標値も 86%でもう少しであった。
	心身の健康や安全に関する十分な指導	感染症防止対策ができているか。	評価アンケート「心身の健康や安全に関する十分な指導」上位評価割合92%以上[生徒]	・保健委員が校内放送及び保健だによりを通じて広報活動を実施	B	保健委員の広報活動により、94%で目標値を達成することができた。

	安全管理体制の確立	施設は安全であると安心できるか。	評価アンケート「施設は整備・点検されていて安全」上位評価割合90%以上 [生徒]	・安全点検を昨年度より早期に行い、緊急度の高い事柄から改善を図る	B	今年度は2・3学期に安全点検を実施し、事務と連携を図り緊急度の高い所から改善したが、目標値を下回った。(88%)
		緊急時の対応が確立されているか。	評価アンケート「緊急時の安全確保のための役割自覚」上位評価割合が90%以上 [職員]	・職員研修として「救急救命講習会」を実施及び生徒理解研修での個別の対応の確認	B	例年通り、1学期終業式後に職員・運動・文化部活動代表生徒対象に救急救命講習会、また別日に生徒理解研修を実施したが目標値を下回った。(87.7%)
環境教育	整理整頓清掃の促進	整理整頓及び清掃を意識し、毎日、掃除に取り組んでいるか。	評価アンケート「掃除への取組」上位評価割合が92%以上 [生徒]	・委員会活動による環境掃除チェック及び掃除時間以外での清掃活動の実施	B	毎学期に環境掃除チェックを実施したことにより、清掃活動の意識が高まり、目標値を上回る(96%)ことができた。
	環境教育の充実	環境問題を意識した行動をとっているか。	・学校版ISOの目標を掲げる。また、照明・エアコンのスイッチを利用してない時には必ず切る。	・環境美化委員だよりに、環境資源問題などを掲載し、電気の無駄使いの削減	B	教室等での学校版ISO目標を掲げることができた。環境美化委員の呼び掛けにより、電気の無駄使いの削減に貢献した。
図書館教育	読書センターとしての機能充実	読書習慣の確立	貸出冊数の増加 (目標値:生徒一人あたりの年間貸出冊数3.7冊以上/年)	全職員の共通認識の下での「耽読の時間」の設定	B	1月末現在の1人当たりの平均貸出数は0.2ポイント増加し、貸出冊数も300冊以上増加したが、朝読書廃止前の状況には回復せず、更なる改善策が必要である。
		生徒、職員が利用しやすい読書センターとしての図書館づくり	図書館来館者の増加 (目標値:年間来館者3,000人以上)	・図書館報(年2回発行)、図書館だより(年8回発行)による読書啓発 ・図書館内の装飾や館外掲示による誘い ・上映会・企画展示等図書委員会活動の活性化と企画の充実	A	図書館の来館者数は、1月末現在で、5,562人で目標を大きく上回った。図書館だよりは9回発行し読書の啓発活動に努めた。また、東稜ライブラリーシネマを実施し、太平洋戦争で一般市民が死傷した意味を問うドキュメンタリーを参加生徒が視聴して意見交換を行った。戦争の悲惨さを理解し社会を見つめるための読書啓発を行った。
	学習センターとしての機能充実	各部、各学年、各教科との連携	図書館利用授業時数の増加 (目標値:年間50時間以上)	・計画的、組織的で蔵書バランスに配慮した選書の継続 ・部、学年、教科と連携した必要資料の事前準備 ・学級文庫設置 ・(分野ごとの)ブックリスト学級配布 ・レファレンス充実	A	・各教科等の要望も踏まえながら、高校生のために適切な選書ができていた。 ・授業での図書館利用が目標値の2倍の104時間となつて、前年度の利用時間を大幅に超える結果となった。特に総合的な探究の時間、国語、地歴公民科目等で積極的に利用された。 ・学級文庫を1・2年各クラスに置き、中身を年に数回変更しながら読書推進に努めた。

					<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりやテーマ展示を行い、読書啓発を推進した。 司書を中心に生徒や職員の問い合わせ1つ1つに丁寧に対応し、レファレンスサービスを充実させた。
	生徒、職員が利用しやすい学習センターとしての図書館づくり	テーマ展示コーナーの充実(年間12回以上)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館終礼 机配置の工夫 感染症予防 	A	<ul style="list-style-type: none"> スマホダイエットなど重複するテーマも含め、企画展示数は28種類31回と意欲的に来館者に向けた発信を行った。 パーティションを継続して設置し、換気にも注意を払い感染症予防に努めた。
アーカイブセンターとしての機能充実	東稜高校の歩みを物語る貴重な歴史資料の収集・保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> 東稜高校アーカイブズを開館し、アーキビスト又は館長を置く。 東稜高校アーカイブズ規程の策定・周知 	<ul style="list-style-type: none"> 関係部署との連携 アーカイブズイベントの開催 生徒図書委員会の活動の活性化 	A	司書と司書教諭が連携し、図書委員会の活動が円滑に行われるよう尽力した。特に、図書委員会アーカイブズ班が行った『日露戦争120年～激戦地から熊本へ届いた手紙を読む～』というテーマの研究では、手紙の崩し字の解読指導や現地での調査活動の支援を司書教諭が細やかに行った。この研究の展示には、外部からも様々な来場者が訪れ、マスコミ4社からの取材もあった。また、研究のまとめは、県高校生徒地歴・公民科研究発表大会で発表され高い評価を受けた。

4 学校関係者評価

- 生徒の事故が多いのは、道の状況等もあり、子どもたちだけの責任にはできない。しかしながら、二列走行なども多々見かける。ヘルメット着用の指導も徹底してほしい。
- アンケートでは、学校行事で主体性を発揮できているとのことである。そうであれば、勉強面でも十分主体性を発揮できるのではないかと期待できる。
- 宅習時間には、塾や図書館等の自習室も含まれているのか？他校では塾に通わずとも平日4～5時間、休日7～8時間家庭で学習している生徒もいる。
- 高校を国公立大学の進学数で評価する風潮があるが、それが正しいか疑問がある。また、推薦入試で合格した生徒の、入学後の成績に疑問があるとの大学教官の感想もある。生徒が希望する専攻に応じた指導が必要ではないか？
- 来年度の2年生から特進クラスを設置すること。特進クラス以外の生徒にも好影響を与える良い取組である。また、特進クラスに興味がある中学生や保護者も多く、かなり魅力的である。
- 今後、県立高校の生徒募集はますます厳しくなる。設備で勝負するのではなく、どういう仲間がそこで学んでいるのか、互いに高め合うような校風なのか等が大切になっていくのではないか。

5 総合評価

【重点目標（5項目）評価】

（1）生徒指導の充実（生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携）

評価項目数計[9] A[2]B[6]C[1]D[0]

9項目中8項目で目標が達成できている。規範意識、情報モラル、自主的・主体的活動、生徒理解や支援の充実、生活習慣の確立、情報モラル教育の充実が評価できる一方で、交通安全に関する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「生活習慣の確立、規範意識の醸成：B、情報モラル教育の充実：B、交通安全教育の徹底および充実：C、主体的な生徒会活動の推進：B（生徒指導）」「生徒の理解及び支援の充実：A・A（生徒理解・教育相談・特別支援教育）」「生活習慣の確立：B、心身の健康や安全に関する十分な指導：B（健康教育）」

（2）学習指導の充実（教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成）

評価項目数計[2] A[0]B[1]C[1]D[0]

取組2項目では、自学力の醸成に関する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「授業を主体とした学力向上の取組：B、自学力の醸成：C（学力向上）」

（3）進路指導の充実（系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり）

評価項目数計[2] A[0]B[2]C[0]D[0]

取組2項目では、オープンキャンパスへの参加やインターンシップ実施などキャリア教育の充実が図れた。また、進路目標の達成に関する取組も概ね目標を達成できた。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「キャリア教育の充実：B、進路目標の達成：B（キャリア教育（進路指導））」

（4）学校環境の整備（物的環境の整備、人的環境の整備）

評価項目数計[11] A[0]B[10]C[1]D[0]

取組11項目中1項目（開かれた学校づくり）で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「学校改革の推進：B、業務改善働き方改革：B、開かれた学校づくり：C・B（学校経営）」「防災教育：B・B、学校運営協議会：B（地域連携・コミュニティ・スクールなど）」「安全管理体制の確立：B・B（健康教育）」「整理整頓、清掃の促進：B、環境教育の充実：B（環境教育）」

（5）豊かな人間性の涵養（個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化）

評価項目数計[11] A[5]B[6]C[0]D[0]

取組11項目中全項目で目標が達成できた。人としての在り方生き方に対する自覚の深化、命を大切にする心を育む等、更に深化していきたい。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「人権尊重の精神に立った学校づくり：B、命を大切にする心を育む：B（人権教育の推進）」「命を大切にする心を育む：B・B（いじめの防止等）」「国際コース：B、理数コース：A（コースの特色）」「読書センターとしての機能の充実：B・A、学習センターとしての機能の充実：A・A」「アーカイブズセンターとしての機能充実：A（図書館教育）」

6 次年度への課題・改善方策

評価項目全35項目中、目標が達成できた（AまたはB）のは32項目（91%）、達成に至らなかったのは3項目（9%）であった。

今年度、前期選抜では出願者数を伸ばすことができたが、今後それを持続するためには、これまで以上に学校の魅力化が不可欠である。本校では、来年度から2年生に特進クラスを設置し、より高い進路目標実現のために、更なる授業改善等を行う。この取組は、中学生にとっても興味深く、本校の魅力化につながるものと期待できる。

また、生徒の学力向上に欠かせない自学力を醸成するため、また生徒の実力に応じて個別に対応するための手立てのひとつとして、2、3年生でスタディサプリを導入する。

さらに、いじめのない安心して落ち着いた学校生活を保障するため、命を大切にする心を育む教育、人権教育の更なる充実を図る。具体的には、生徒については新年度早々のエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを深化させる。職員については、外部講師を招いての職員研修や職員間の情報共有の機会を増やし、生徒指導や特別支援教育、教育相談等に関する全職員のスキルアップを目指す。

